

鉄道ピクトリアル

2010年12月号 Vol.60 No.12 通巻No.842

<特集> 相互直通運転50年

■表紙 京急線に乗り入れた京成3050形……………焼田 健

品川 2010-10-2

キヤノンEOS 5 D Mark II EF100-400mm F5.6 L IS 絞り f 10 タイム1/125

■グラフ

より速く! より便利に! (1~7ページ)

安田孝哉・海野達也・河原慶明・池添智和・澤木良直

……………浜村正弘・森田 宏・和田康之・岸 義則・井上英樹

山中 茂・金子 聡・森 友紀・真鍋裕司

思い出になった相互直通運転 (8ページ)

……………小林 武

*

都営1号線↔京成・京急 相互直通運転が始まった頃

……………写真:石本祐吉ほか… 25

東京圏・関西圏都市鉄道の相互直通運転 近年のトピックス

……………写真:大津 宏ほか… 30

写真で見る直通運転のいろいろ ……………写真:真鍋裕司ほか… 34

創立100周年 近代化の道を歩む熊本電気鉄道の20年

……………写真:堀田和弘 構成:編集部… 36

*

Pictorial Color Gallery 街の景色が変わる時 ……………飯塚 卓治… 73

[JR西日本225系5000番代/JR東日本HB-E 300系「リゾート

あすなる」編成・「リゾートしらかみ」青池編成/阪神電気鉄

道5550系/千葉国体で外房・内房・京葉線にお召列車ほか

76~81

トピック・フォト (各地・関東・中部・関西)…………… 82

D51その一族—1115分の1の素顔—(117) ……………構成:編集部… 90

インドネシア JABODETABEK 都市圏を走る

通勤形電車のバラエティ ……………斎藤 幹雄… 92

2010年“越中おわら風の盆”高山線臨時列車の話題 ……………杉下 浩生… 94

■本文

今月の話題:相互直通運転50年 ……………編集部… 9

相互直通運転における定時運転維持をめぐって ……………富井 規雄… 10

日本の相互直通運転の要件と特徴 ……………藤田 崇義… 16

相互直通運転 見たり、聞いたり ……………川島 令三… 41

都営浅草線に始まる相互半世紀[1960~81年] ……………寺西 知幸… 48

*

「東芝戦時形機関車」の導入過程 [2] ……………澤内 一晃… 60

インドネシアで活躍する日本の電車2010 ……………斎藤 幹雄… 66

鉄道の話題 ……………編集部… 97

東京地下鉄16000系……………世木 智博… 98

開業100周年を迎える熊本電気鉄道の現況……………堀田 和弘…106

JR東日本2010年12月ダイヤ改正の概要……………編集部…116

書評(564)『古地図でたどる 鉄道の知恵 線路の不思議』

……………和久田康雄…117

9月のメモ帳 ……………118

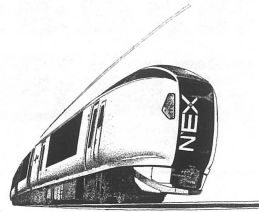
読者短信・情報ファイル ……………119

後部車から ……………123

ISSN0040-4047

Tetsudō pikutoriaru

今月の話題



カット:山本茂樹

相互直通運転50年

一般に会社間に跨る直通運転といえ、歴史上は明治期にまで遡ることになる。昭和戦後期においては定期的な輸送として地方の小規模な私鉄が国鉄に乗り入れ、地方都市のターミナルに直通する事例、また、季節的な行楽輸送として国鉄が地方の私鉄に乗り入れる事例、さらに小田急の御殿場線や箱根登山鉄道乗り入れなど、さまざまな直通乗り入れの形態が見られる。こうした中で、1950年代後半、激化する混雑が問題となっていた大都市の鉄道輸送について、都心部および近郊の高速鉄道整備・改良により、相互に直通運転を行い都市圏鉄道ネットワークの機能を発揮させる政策が進められた。これが、今日大都市の輸送ではすっかり定着した都市鉄道の相互直通運転の端緒であり、1960(昭和35)年12月4日、押上を境界駅とした京成電鉄と都営地下鉄1号線との相互直通開始が最初の事例となった。

以来半世紀、都市交通整備計画などに基づく都市鉄道の新設や延伸、法規の整備も進められる中で、東京、大阪、名古屋、そして福岡も加わって、各都市圏において都市鉄道の相互直通は大きく発展した。現在大手民鉄では九州の西鉄を除き、各社で相互直通の実施、あるいは計画を持っている状況であり、3社、3線以上の相互直通運転も珍しいものではなく、都市における鉄道利便性維持・向上に大きく貢献している。相互直通は会社間の車両や運転形態をはじめ、鉄道趣味のうえでも興味深い内容を有しており、話題に事欠かない。その一方、相互直通の展開とともに、広域な運転形態がもたらす運転支障時の調整、回復遅れなど、課題も少なくないようだ。目下そうした諸課題克服の研究にも注目が集まっている。

TETSUDŌTOSHO KANKŌKAI
Oak Ochanomizu Bldg., Kanda Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan